

3 作業学習部会の研究

(1) 研究の目的

第6次研究の主題である「社会の変化に対応できる力を育てる実践的研究」の必要性は昨今の経済・社会情勢(具体的には本校生徒の進路先が多い道南地域の雇用状況など)や卒業生の事例から、喫緊に求められているところである。「社会の変化に対応できる」生徒とは、本校の目指す生徒像である「豊かな心と健やかな体をつくる生徒」、「希望に向かって努力する生徒」「自ら判断し行動する生徒」とし、教育課程の1つである作業学習を振り返り、見直すことに取り組んだ。

昨年度は、日々の作業学習におけるねらいや指導内容、その授業を受けた生徒の変容も含めた授業の様子をまとめて授業後に振り返ることのできる様式を、これまで使用していた授業略案をもとに改善して作成した。その結果、各学科で統一された評価様式を完成させることができた。その中で、生徒の変化にきめ細やかに気づくことができるようになり、各学科の指導重点を授業計画に反映させながら立案し、生徒の課題を常に意識しながら指導できるようになった。そこで今年度は、昨年度作成した評価様式に修正改善を加えながら、授業実践を中心に組み込んでいくこととした。

修正改善した評価様式を今養版キャリアプランニングマトリックス(以下『マトリックス』と略す)に照らし合わせ、授業を展開し助言等を受けながらPDCAのサイクルに繰り返し取り組んでいくことで、生徒が自己認知を深め自分自身で課題を解決する能力がより身につけられるとともに、職員の生徒理解が深まり3年間を見通した系統立てた指導が可能になること、また、より一層の授業における指導力向上にもつながることが考えられる。

以上のような観点から学校教育の目標を達成し、授業実践を行うことに重点を置き、キャリア教育実践を深めるべく、本主題に設定した。

(2) 研究の内容と方法

- 研究推進委員会より示された、本研究の目的、ねらいを部会内で確認し、全体周知を行った。
また、意見交換を行いながら評価の在り方について適宜話し合いを進めた。
(社会の変化に対応できる力を身につけさせるための授業展開と授業改善)
- 各学科で昨年度作成した評価様式を今年度活用し、改善ポイントなどを話し合いながら、前期にかけて評価様式の改善・修正を行っていった。
(各学科の特性もあり、現在の各学科独自の様式を作成)
- 各学科で改善修正された新たな評価様式を作成し、授業で活用したときの使いやすさ、改善点などについて授業者および部会内で検討し、周知を図っていく。
- 実際の授業に活用しながら、適宜、授業者間で話し合いを行い、部会内で進捗状況を確認し、学科内でも進捗状況を共有することに努めた。

(3) 推進計画

- 6～7月 評価様式の改善・修正に向けて
…各学科で昨年度作成した評価様式について、改善・修正に向けて検討し、修正版作成。
- 9～11月 評価様式の改善・修正に向けて
…各学科で改善・修正された評価様式を使用しPDCAを意識した授業を行い、再度改

善・修正に向けて検討し、修正版作成。

12～1月 公開授業・協議会

…各学科、改善・修正された評価様式を活用して公開授業を行い、協議を行う。

2月 研究のまとめ

…評価様式についてまとめ。

(4) 研究の実際

産業科

- 昨年度、2つの評価様式のうちから個別の指導目標を載せた様式を使用して今年度の研究を進めていくこととなった。
- 決定された評価様式には個別の指導目標の他に目標達成のための手だても併記されており、どのような方法で目標を達成しようとしているのかが一目でわかる様式となっていた。
- STの提出した記録を参照しながらMTが評価を記入し、これを個別の指導目標、手立てと並べたことで、その日の指導を振り返ることができる様式であった。
- しかし、次のような課題があった。
 - ①評価欄に表記された文章から作業学習中の作業面と態度面の力の定着度合いを読み取る努力が必要である。
 - ②マトリックスの観点と指導の重点とを表中で対応させ、どの重点について指導できたか指導者が授業後に自己評価するものとしていたが、その自己評価をどのように授業に取り入れるのかが明確に示されておらず、略案には本時の目標を記す欄もないため、ともすれば授業のねらいが見えないまま授業づくりを進めることになる危険性がある。
- そこで、旧様式(資料1)を見直した新様式(資料2)を作成して授業改善を図り、具体的には次のようにして授業改善を意識できるようにした。
 - ①個別の指導目標、手立てを簡潔に記すようにし、作業面と態度面それぞれを評価できる枠組みにする。
 - ②生徒の評価をもとに、前時の授業の目標を評価する。
 - ③前時の生徒の評価、授業の目標の評価をもとに本時の目標を決める。
 - ④指導の重点(マトリックスの観点と対応済)は授業者の自己評価としてではなく、授業者が単元を設定する際にどこに重点を置くかを明確にするためのツールとして活用する。

農業科

- 昨年度作成した評価様式(資料3)を1学期かけて使用し、PDCAサイクルを意識したよりよい授業や評価につながるように評価様式の改善修正点について話し合った。
- 話し合ったポイントとして
 - ①「授業記録と評価について」
 - ②「個別指導目標と重点目標(マトリックスと学科の重点目標とリンクしたもの)の評価について」
 - ③「評価(通知表)との兼ね合い」の3点が上げられた。
- 昨年度の評価様式(資料3)作成時点では、学科の指導の重点を記載し、その日の授業では特にどの重点に重きをおいて指導するのかを明確にした点と、指導の重点に対しての授業者自身の評価と生徒個人個人の評価を3段階評価で行っていた。これらを改善した方がよいという話し合いポイントが上記の①②である。改善ポイントとして、通知表に記載さ

れている作業学習の個別の指導目標に対する評価（到達度）も評価する項目に追加し、3段階評価を5段階評価で数値化して、生徒の変化や指導目標の適正について考える一つの指標となるようにした。（資料4-1）

- 日々の評価の積み重ねが、長いスパンでの生徒の変化や指導目標の適正について考える材料にならないか、また通知表に生かせないかという話し合いポイントが上記の③である。改善ポイントとしては、新たに月別に評価できる様式を作成し、日々5段階で評価を数値化している数値を、月別単位で平均値を出し、月別の平均値を比べることで、生徒の変化を分かりやすい形にし、指導目標が適正であるか考える材料とした。（資料4-2）
- 改善した評価様式（資料4-1、2）を2学期にかけて使用し、公開授業も行いながら活用していった。

家庭科

- 昨年度、学科として統一した評価様式を作成した。生徒全員分の一週間程度の評価を記入する評価様式は、担当する生徒の前時の様子がわかったり、重点的に指導する点や指導方法をまとめて確認することができ指導に生かすことができている。
- この評価様式は Excel ファイルで、その日の授業で担当した生徒の様子を入力している。授業に入る指導者は複数いるが、一人ずつしか入力できないため、同時に入力できる様式の作成を行った。（資料5、6）

（5）成果と課題

産業科

【成果】

- 前時の評価から本時の目標を設定する流れにしたことで、MTはより授業改善を意識し、何を重点に指導したいのかをSTと共通理解した上で授業ができるようになった。
- 個別の指導目標、手立てが簡潔にまとめられており、その内容が理解しやすくなった。
- 見開きの形式であるため、日々の目標の到達度合いを感じることができる。
- 生徒の評価が作業面と態度面に記されていることで、その生徒の定着度がより見えやすくなった。

【課題】

- 単元の設定と、その単元でどこに指導の重点を置くかを定めること。
- この評価・略案様式を使用してよりよい授業づくりを進めるため、継続して指導者が互いの授業を見合ったり、話し合いを重ねたりしていくこと。
- 個別の指導目標と手立てを、作業面と態度面の2つの視点から設定すること。

農業科

- 【成果】 ○昨年度同様、授業の指導重点や個別の指導目標が常に記載されているので、毎時間意識することができる。
- 授業記録をこまめに取り習慣が付き、生徒の作業実態が振り返りやすくなった。
- 生徒評価を数値化することで、目に見えて生徒の課題が分かりやすくなった。
- 授業者自身の評価では、授業の指導重点項目をより明確化することでよりポイントを絞って振りかえることができるようになった。

- 【課題】○生徒評価を数値化したことで、生徒の目標達成度や課題が分かりやすくなったが、評価そのものが、授業者や指導者の主観での判断になっているので、基準が不明確で記録者によって判断基準が変わる恐れがある。(指導者間の評価基準の統一が難しい)
- 昨年度同様、農業科の特性上、天候によって作業種を突如切り替えたり、作業種を分けて行わざるを得ないときがある。そのため、作業種が変わると重点項目が変わったり、指導者が分かれて指導することがあり、評価がつけにくいときがある。
- 生徒の進路別にグループで作業することもあり、現在の評価様式だと一律に重点項目の設定になってしまう。

家庭科

- 【成果】○昨年度同様、個別の目標が記載されていることで、それを見た指導者が個々の生徒の課題とするところを常に意識して授業に取り組めたことに加え、授業後の評価への活用にもつながった。
- 授業によって担当教員が変わっても、生徒の課題とするところを意識した継続的な指導にもつながった。
- 複数の指導者が同時にデータ入力できる様式に改善したことで、業務の効率化が図られた。
- 【課題】○マトリックスにより、指導者はキャリア教育の視点で授業づくりを行うようになった。しかし、そもそもキャリア教育とは、生徒が主体でなければならない。生徒の自立、自発性、自己選択や自己決定などを意識した取り組みでなければならない。そこで、指導内容表(学習指導要領や他校の指導内容を参考に作成した各教科領域ごとの指導内容を本校独自でまとめたもの)をキャリア教育(まずは4領域)のどの部分に当てはまるかを整備していくことで、生徒一人一人のキャリア発達につなげられるのではないかと考える。
- 各授業においての指導の重点の評価は、授業者の自己評価だけではなく、授業に入っている他の指導者も評価をし、記入できるようになると更に授業改善につながると思われる。

このように、本研究を通してのこの一年間は各学科ともに授業改善のための取り組みを行った2年目であった。昨年度の反省を踏まえ、各学科とも創意工夫で評価様式の改善に努め、授業改善に励み、一定の成果をあげることができた。しかし、今後もよりよい授業実践が行われるためには、全職員が同じ目的をもって取り組むことが不可欠である。そのためには、日々確認の場を設け、みんなで知恵を出し合って授業改善に努めていくことが必要である。

平成 26 年度 産業科 2 年 作業学習 (5 回目) 授業メモ

日 時	平成26年 4月17日 (木) 13：00 ～ 14：30		場所	窯業室	指導者	・田中 高橋 小林睦
単 元 名	オリエンテーションおよび復習		題 材 名	粘土練り・粉碎・やすりがけ・木の葉皿の成型		
時刻	学習活動				教材・教具	
13：00	・作業服 (エプロン持参) で窯業実習室に集合、手洗い 作業の用意 ・始業あいさつ (日直号令) 「気をつけ」「これから作業を始めます。」「礼」「田中先生、お願いします。」 田中 ⇒ 4日間の作業を終えて 「やる気、元気、根気」 本時の内容の説明 「ほう、れん、そう」は社会人として当たり前！ 「手早く」「ていねいに」「声かけ」+「応える」「協力して」「状況判断」				<生徒服装・持ち物> ・作業服・作業ファイル ・筆記用具・エプロン	
13：10	<粘土練り・粘土再生> 3年生側作業台奥にて ※田中先生 B・・・粘土練り (白土)、粘土再生 (赤土) G・・・粘土切り (黒土)、粘土再生 (赤土) H・・・粘土切り (黒土)、粘土再生 (赤土) ※時間に余裕があれば、木の葉皿の成型 <粉碎> 赤土 (50分間) 作業室1にて ※高橋先生 C D I ※時間に余裕があれば、コーヒークップのやすりがけ。 <やすりがけ> コーヒークップ 作業室1にて ※小林睦先生 A E F					
13：57	<あとかたづけ・掃除> (掃除は23分間で、必ず終わらせる！) C D F I・・・作業室1の掃除 A E・・・窯業室の掃除に加わる					
14：20	<反省> 全体の反省 日直号令 「気をつけ」「これから反省を始めます。」 「礼」 「田中先生、お願いします。」					
14：30	・終業あいさつ 「気をつけ」「これで作業を終わります。」「礼」「お疲れ様でした」 ・退室あいさつ、タイムレコーダー					
授業記録						
☆						
作業の様子						
A	やすりがけ途中のコーヒークップを2つ完成。全体的に集中して行っていた。中の側面にできたでこぼこを180番で滑らかにすることができず、職員にすぐ聞くことができていた。以降は80番で滑らかにすることができた。また、EやFにやすりのかけ方を教えていた。掃除の際にも、周囲を見て指示を出していた。			F	初めてのコーヒークップのやすりがけではあったが、誰にも聞かず作業に取り組んでいた。Aに底からかけることを促されかけているが、以降も自分から聞くことはなかった。A、Eの様子を見て行ったり、Aの完成させたものを見てやすりがけを行っていた。側面と取手部分を行って終了している。掃除の際にはモップがけを行ったが、ゴミを確認せずにやって残っていたので職員から指摘されている。	
B	赤土のくず粘土を1.0～1.5cm 程度四方の大きさに手で砕く作業 (粘土再生) に25分間ほど楽しそうに取り組む。バレンタインデーの手作りチョコのために割っている気持ちだったという。カップの底板と思われるほどに厚い粘土もあったが無言で取り組む。白土の再生 (昨日から続いている粘土練り) も水を加えてから手が滑ってやりにくくなり、田中先生が20回ほど煉って交代。その後は順調。粉碎チームが洗い忘れている洗面器類を洗いを買って出る。後片づけに全く問題は見られない。			G	赤土のくず粘土を1.0～1.5cm 程度四方の大きさに手で砕く作業 (粘土再生) に取り組む。「固い・・・」「手が・・・」などと言いながら取り組んでいたが、キズ絆創膏がどうのこうのといった言葉も出なくて良い状況である。砕いた後、水に浸した時には興味津々。黒土をそぎ切る作業では、Hがやりにくいだろうと判断して立ち位置を替えていた。後片づけにも問題なく取り組んでいた。	
C	粉碎量630g。 3人の中で唯一最初から最後まで片手を洗面器に添え、丁寧にしていた。 自分の使用した道具を洗わず、他の掃除をしていた事に対し注意が入る。また、洗い残しをDに注意されていた。			H	赤土のくず粘土を1.0～1.5cm 程度四方の大きさに手で砕く作業 (粘土再生) に黙々と取り組む。 黒土を削ぎ切る作業では「柔らかい粘土ではないので、できるだけ薄く切り取るように」との指示を忘れていたのか、それとも、それが可能な限りに薄く切っているのか、明らかに力いっぱい切り糸を引いているように見えたので、再度、田中先生から指示を出された。	
D	粉碎量650g。 明るく大きな声を意識出来ていたので、今後は「まーす」と語尾高で間を伸ばさない話し方があるといい。作業は残り1分となると力強く粉碎出来た反面、机に手を付けていたり、無駄な動作が多い。 準備から片付けまで優しく教え、指揮を取っていた。			I	粉碎量940g。途中、避難訓練が入ったものの、すぐに気持ちを切り替え一心不乱に作業できていた。 1キロに到達したいという意欲が強く表れていた。準備は2回目だからと言い訳せず積極的に周りに聞いていた。しかし、掃除では自分の使用した道具を洗わずに別の掃除をしていた事に注意が入る。	
E	時間をかけて1つやすりがけし未完成。丁寧に作業をしており、わからないところは積極的にAに聞いて行っていた。やすりがけ自体は手早く行っているが、1箇所に時間を費やしてしまっている。					

No.	マトリックスの観点	指 導 の 重 点	評価
1	【職業】	正しい手順や方法で作業を行い、集中力や作業に必要な体力などの基本的な能力を身につけさせる。	
2	【職業】 【コミュニケーション】	あいさつ、返事、報告などの作業をするのに必要な基礎となる力を身につけさせながら、仲間と協力して取り組む姿勢を育てる。応対の仕方など基本的な行動様式を育成する。	
3	【心と体】【知識・技術】	健康・安全指導を徹底するとともに、整理整頓、清掃などの習慣を育成する。	
4	【知識・技術】	生産から販売、納品までの流通過程の学習を通し、流通の仕組みを体験させ、働く喜びや意欲の向上を図る。	なし
5	【自己理解】【職業】【自己内省】	「作業強化日」「現場実習」を通し、自ら課題を理解するとともに、課題解決への意欲を高める。	なし
6	【職業】【知識・技術】	販売学習を通し、実践的な態度や勤労意欲を育成する。	なし

評価の基準 ◎…達成できた ○…おおむね達成できた △…改善の余地がある

	個別の指導目標	手だて	評価	備考
A	・時間いっぱい集中して作業に取り組み、製品の細部に至るまで丁寧に扱うことができる。 ・仲間同士で言葉をかけ合い、それに応えたり、時には指示を出すなど、協力して作業に取り組むことができる。	作業における本人の課題を理解させながら取り組ませる。 効率良く仕事を進めるために、仲間と応答し合い、本人から指示を出して協力することが必要であることを理解させて取り組ませる。	やすりがけのような単純な作業では、途中でミズをすることもなく、最後まで集中することができる。 やすりがけは得意な作業であり、仲間にも余裕を持って説明する力がある。	
B	・返事や報告をする際の声の大きさを意識しながら作業に取り組むことができる。 ・仲間へアドバイスするなど仲間同士で協力しながら作業を進めることができる。	将来の自立とともに作業の際の本人の課題を意識させながら、改善に向けて取り組ませる。 一緒に作業を進めている仲間とともに、助ける場面も考えながら作業に取り組むことができる。	粘土練りや粘土の再生作業は前回から楽しく取り組むことができている。 自分たちの後片づけ以外にも気持ちを向けることができるほど、周囲に目を配る力があるため、片づけていない道具を見つけるとそのままにしておくことができないほど積極的である。	
C	・作業での自分の課題を理解して、その課題を意識しながら作業に取り組むことができる。 ・仲間同士で声をかけ合い、それに応えながら協力したり、状況を見て作業や後片づけを自分から取り組むことができる。	本人の課題を掲示するなど、作業時間中にいつでも意識できるようにして取り組ませる。 いろいろな作業場面において、本人が必要だと判断する作業を教師とともに考えながら取り組ませる。	使った道具から目を離して他の作業に取り組むような場合、洗わなければならない道具の存在を忘れてしまう。 気づくような支援（視覚的な）方法が必要な生徒である。	
D	・作業工程中の細かな作業をていねいに行いながら、作業場に合った声の大きさを返事や報告をすることができる。 ・仲間同士で言葉をかけ合い、それに応えながら協力して作業に取り組むことができる。	作業に最後までていねいに取り組ませるとともに、報告や返事の声の大きさが求められる理由を教師と考えながら改善できるように支援する。 早く作業が終わるために、仲間と応答し協力することが必要であることを理解させ、取り組ませる。	本日の粉砕はそれほどではなかったようであるが、全体的に見ると、作業中に一生懸命取り組みようとする意欲がほとんど感じられない。むしろ、辛い作業から速さで楽をしようと考えているように見受けられる。	
E	・製品の完成までの時間を短縮するように意識して取り組むとともに、大きな声で返事や報告をすることができる。 ・仲間同士の言葉に応えたり、自分から提案したりして、協力して作業に取り組むことができる。	作業の仕上げまでの時間を短縮したり、返事や報告の声の大きさが必要とされる理由などを考えさせながら取り組ませる。仲間からの声かけを待つだけでなく、自分からも声をかけて作業に取り組む理由を教師と考えながら繰り返し取り組ませる。	ようやく「手早く行う」ことに意識を向けることができるような雰囲気を出してきた。しかし、連日、そのような様子を出出できるようにならないといけない。	
F	・他人の作業を気にせず、よそ見をしないで作業に取り組むことができる。 ・仲間同士で声をかけ合い、それに応えながら協力したり、状況を見て作業や後片づけを自分から取り組むことができる。	他人のことよりも自分の作業に意識を持たせて取り組ませる。 いろいろな作業場面において、本人が必要だと判断する作業を教師と一緒に考えながら取り組ませる。	わからないことに対して素直になれないのか、聞かずに取り組む場面は本日に限ったものではない。本人が見て理解する能力が確にあるため、その範囲内では良いだろうが…。それよりもコミュニケーションを取らずに仕事をしている様子は、いかがであろうか？	
G	・体調に影響されずに、最後まで集中して作業に取り組むことができる。 ・仲間同士で言葉をかけ合い、それに応えながら協力して作業に取り組むことができる。	体調の善し悪しで仕事の結果が左右されると、一緒に取り組んでいる仲間がどのように感じるのかを考えさせながら取り組ませる。 仲間と協力して仕事を進めて、効率良い仕事の流れを生み出すことにつながるよう意識させる。	「手が痛い」「足が疲れる」など、いろいろな方法で存在を認めさせるが構わないでいると、そのうちにお喋りをしなくなる。 黙って仕事に取り組むことができる生徒であるので、お喋りをしないで取り組む価値を教えていきたい。	
H	・時間内に多くの仕事ができるように、できるだけ手早く作業をすることができる。 ・仲間同士で言葉をかけ合い、それに応えながら協力して作業に取り組むことができる。	以前の取り組み結果と現在のものを提示して比較させ、自信を深めて取り組ませる。 仲間と応答し合うことが、早く作業が終わるために必要であることを理解させて取り組ませる。	指示された方法や仕方に沿って取り組むことができる反面、意外に間違って取り組む場面もみられる。	
I	・困ったことやわからないことがあった時には、すぐに相談することができる。 ・仲間同士で声をかけ合い、それに応えながら協力したり、状況を見て作業や後片づけを自分から取り組むことができる。	すぐに相談して、わからない不安を打ち消すことができる経験を繰り返させる。 いろいろな作業場面において、本人が必要だと判断する作業を教師と一緒に考えながら取り組ませる。	今日は意欲的に取り組むことができたが、連日、意欲を見せながら仕事ができないので残念である。気持ちがぶれずに力いっぱい取り組むことが続けば、それが本人自らを奮い立たせる方法になるのだが…。	

新提案

平成 26 年度 産業科 2 年 作業学習 (100 回目) 授業メモ

日 時	平成 27 年 1 月 29 日 (木) 13 : 00 ~ 14 : 30	場 所	窯業室	指導者	田中 高橋 小林睦
単 元 名	販売実習に向けて	題 材 名	やすりがけ・鑄込み・成形		
	本 単 元 の 指 導 の 重 点				重点
指導観点	① 正しい手順や方法で作業を行い、集中力や作業に必要な体力などの基本的な能力を身につけさせる。				◎
	② あいさつ、返事、報告などの作業をするのに必要な基礎となる力を身につけさせながら、仲間と協力して取り組む姿勢を育てる。対応の仕方など基本的な行動様式を育成する。				◎
	③ 健康・安全指導を徹底するとともに、整理整とん、清掃などの習慣を育成する。				○
	④ 生産から販売、納品までの流通過程の学習を通し、流通の仕組みを体験させ、働く喜びや意欲の向上を図る。				○
	⑤ 「作業強化日」「現場実習」を通し、自ら課題を理解するとともに、課題解決への意欲を高める。				
	⑥ 販売学習を通し、実践的な態度や勤労意欲を育成する。				
本時の目標	①成形、やすりがけ、泥しよう作りなどの作業に最後まで集中して取り組むことができる。 ②仲間の存在を意識しながら、その仕事ぶりに合った行動をするなど、常に協力して作業に取り組むことができる。				
時 刻	学 習 活 動			教材・教具	
13 : 00	<始業前準備> ・入室、道具準備、身だしなみの最終確認 <始業> ・始業の挨拶、田中先生より作業内容と分担、目標の確認、次に他の先生方から何かあれば一言			<生徒服装・持ち物> ・作業服、エプロン、タオル ・作業日誌ファイル ・メモ帳 (必要な者のみ) ・筆記用具	
13 : 10	<作業開始> <やすりがけ> 作業室1 ※田中先生 C・・・長皿 (黒土) <鑄込み> ※田中先生 F・・・丸小鉢・六角小鉢・丸皿・湯呑み <成形> ※ 田中先生 高橋先生 小林睦先生 A・・・八角皿 (白土) B・・・コーヒークップ (白土) G・・・茶碗 (赤土) E・・・カフェオレカップ (白土) D H I・・・プレート皿 (白土) <清掃> 25分で完了するように、協力して取り組ませる。				
13 : 55					
14 : 20	<反省・終業> 田中先生から → 高橋先生 → 小林睦先生				

記録

A	八角皿を2枚完成させる。2枚とも丁寧で、集中力も続いていた。効率よく時間を使っており、隙間の時間で使わない道具を拭いたりするなど、常に考えて行動していた。返事などは気を抜いてしまう時があり、勿体ない。	F	前回ははずした鑄込み製品を修正するが、時間を要する。取り組み具合を見ている指導者と視線が合った時には、指先で指し示して確認する仕草をして取り組みを繰り返す動作が見られる。けっして怠けているのを隠す動きではないが、何か不自然に見える。
B	途中経過のカップが柔らかく、乾燥させている間に別のカップを最初から作り始める。何度か板が入らないと苦戦していたが2個を完成させた。コツも掴んでおり、上から下にかけて力を抜いて行くようボウズを滑らせるという工夫をしていた。	G	側部分の高さ(80mm以上)を意識して作り始め、深さ(65mm以上)と直径(120~130mm)を意識しながら仕上げていく。ここ3回ほど、同じサイズで仕上げる事ができている。口縁を切り取る際、切針の深さが不十分だったために苦戦したが、何とか修正して仕上げた。
C	掃除の時にモップを絞ろうとしたが人手が足りず困っていたものの、隣にいたBのやり方を見て自分から真似しようとする場面があった。自分にはできないと判断してすぐに小松Tに「持ってください」と言えたのはかなりの進歩。	H	(実習中)
D	報告や返事など、声の大きさに関して「悪い」とはいえない。動きの面でも悪い箇所は目立たないが、次週から実習に出る人間の働きぶりには見えない。「実習先から良い評価をもらおう」と考えていないような感じがする。	I	(欠席)
E	1個完成。トースカンで上部を切り取る際にぶれてしまい、そこから立て続けにミスを起こす。しかし、本人納得いかない出来だと言うものの、作品自体は持ち直しており綺麗な仕上がり。声の大きさなどとても良い。		

前時・平成27年 1月28日(水)の記録・評価 【単元：販売実習に向けて】

		目 標	手立て	記録・評価	備考
A	作業	製作では最後まで丁寧に 作業中は最後まで集中して	・言葉がけして意識させる ・なごませる言葉をかけて気づかせる	作業までから3枚以上作ると言っていたとおり作り上げることができた。	
	態度	言葉をかけ合って協力する	・言葉がけの必要性を伝える	仲間を軽視(?)する様子が見られる。考え方が少し変化してきているのだろうか。	
B	作業	将来の生活を思い描きながら、 作業の終了まで全力で取り組む	・言葉がけして自立した姿を意識させる	毎回意識していたであろう「側板が少し傾いたコーヒークップ」に見られる製品を作りだした。	
	態度	アドバイスや支えるなど援助することができる 互いに協力して作業を進める	・仲間と協力するよう言葉がけする	体調が悪い中でも、力を抜かず最後までしっかりと取り組むことができた。	
C	作業	作業を成し遂げるために必要な 自分の課題を意識しながら	・課題や注意点を示す ・メモさせる	理解不足もあり、やすりがけの方向を間違えた。しかし、落ち込まずに次に指示された部分をかけ続けた。	
	態度	仲間に言葉をかけ合いながら 状況を判断して取り組む	・判断するヒントを与える ・うまくできたらほめる		
D	作業	常に丁寧に 作業場に合った声量や明るさで 返事や報告	・声量や明るさが不適切な時は指導	指押しの線が太いまである。押し込む力量と回数が不足している。	
	態度	誰とでも言葉をかけ合って協力 効率よく作業に取り組む	・常に言葉がけして意識させる	板伸ばしの場面、手早さが少し見られている。実習へ出る直前の気持ちの表れであろうか。	
E	作業	正確に手早く取り組む 作業場に合った声の大きさや明るさで 返事や報告	・目標の時刻を設定する ・常に言葉がけして意識させる		
	態度	誰とでも言葉をかけ合って協力 効率よく作業に取り組む	・不適切時は例示しながら指導	周囲の動きと実習へ行く意識のため、自分の仕事がおそろかになっていた。後半は持ち直していたが・・・。	
F	作業	指示内容を正しく理解 不確実には再確認をしながら	・正しく理解したかどうか確認する ・不適切時は指導	比較的、手早さはない。コンテナに保管している修正前の製品を一番奥から取り出して修正しようとして制止され、一番手前の製品を不平なく修正し始める。	
	態度	仲間に言葉をかけ合いながら 状況を判断して取り組む	・言い方や表情が不適切なときは例示しながら指導	取り組んだ作業種の結果を聞かれるまで報告しない。ダメな面が見られ続けているので、そんなことではいけないという指示には、元氣よく「ハイ！」。	
G	作業	体調や気分に関わらず 最後まで気持ちを集中させる	・言葉がけして意識させる ・できた時はほめる	一時、手に負えるかどうかギリギリの場面ではアピールは見られなかったが、今は「なんとか乗り切れる」状況なので、そこからくる気持ちの高まりなのではないか？	
	態度	誰とでも言葉をかけ合って協力 効率よく作業に取り組む	・効果ある言葉をかけた時はほめる		
H	作業	手早く正確に取り組む 返事や報告は適度な間隔で	・常に言葉がけして意識させる ・できた時はほめる		実習中
	態度	仲間に言葉をかけ合いながら 状況を判断して取り組む	・言葉がけがたりないなど、不適切な時は例示して指導		
I	作業	困った時やわからない場面では、 すぐに相談する	・メモさせる ・正しく対応できたときはほめる	安定してほぼ正確な製品を作り出すことができている。	
	態度	仲間に言葉をかけ合いながら 状況を判断して取り組む	・言葉がけがたりないなど、不適切な時は例示して指導	状況の変化にも揺さぶられることなく、仕事に取り組むことができていた。	
前時の 目標		① 最後まで集中してやすりがけ作業を続けたり、新たな製品の成形工程を覚えることができる。＜授業者評価：○＞ ② 仲間の存在を意識しながら、その仕事ぶりに合った行動をするなど、常に協力して作業に取り組むことができる。＜授業者評価：△＞			

資料 3

3 学年 農業科作業学習 略案 (78 回目)

日 時： 平成 25 年 12 月 10 日 (火) 5～6 校時

場 所： 農場やハウス周辺

指導者： 近藤(MT) 後藤 T 早坂 T

農業科指導の重点 (平成 25 年度)・本時の重点ポイント (最重点◎、重点○)

(1)	(1) 自立に必要な基礎的学力や社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身に付ける。(知識・技術)
(2)	(2) 栽培から販売までの過程を学習することを通じ、やりがいや生きがいを見だし実践的な労働意欲を高める。(職業)
(3)	(3) 整理・整頓・清掃の生活習慣を身に付けるとともに、健康・安全に気を付ける。(心と体)
(4)	(4) 姿勢の保持、集中力、持続力、集団行動などの基本的作業態度を身に付ける。(職業)
○ (5)	(5) 「作業強化日」「現場実習」を通して自己の課題を理解し、卒業後の職業自立に向けて自ら課題解決をしようと努力する姿勢を身に付ける。(自己内省)
◎ (6)	(6) 様々な作業体験を通して自己の理解力を高め、卒業後の職業生活への見通しを持たせ、自立への興味・関心を持つ。(自己理解)
○ (7)	(7) ホームルームや他教科との連携を図りながら、社会人として必要なコミュニケーションの取り方を身に付ける。(コミュニケーション)

本時の活動：来年度・販売活動の準備

本時の目標：自分の仕事に責任を持ち、基本的な働く力が身についているかを意識しながら取り組む (4 & 6)
：個々の課題が達成できるように努力する (5)

本時の展開

配時	指導内容	学習活動	教材教具・留意点
5 分 (13:00)	集合・内容確認	・班長の号令 ・本時の作業内容と目標の確認。	
80 分 (13:05)	ハウス片付け 校内向け販売会準備	・ハウス片付け A、C、D、F ・校内向け販売会準備 B、G、H 予定していた作業が終わった場合には、担当の先生に報告し、指示を あおぐ。 ・作業場の後片付けを協力して行う	各鉢花、草花灌水は最初 に各自行う。
5 分 (14:25)	集合・反省	・班長の号令 ・本時の振り返りと反省	作業日誌は、帰りま でに提出

評価の観点

- 自分の仕事に責任を持ち、基本的な働く力が身についているかを意識しながら取り組むことができたか (4 & 6)
- 個々の課題が達成できるように努力することができたか (5)

授業記録 指導重点(4&6)→(Δ) (5)→(Δ)

出来るだけ最初の説明で、極力説明を少なくして取り組ませている。

個別記録 (個別指導計画後期目標)

A	・周囲の状況を「見て・話しをして」確認し、手早くいいいに作業を進めることができる。 評価の観点(4&6)→(○) (5)→(○)	E	・見通しをもち、粘り強く最後まで集中して作業に取り組むことができる。 評価の観点(4&6)→() (5)→()
	1つ1ついいいに作業を進めていた。友達から何をしたらよいか?の質問にも的確に答えていた。		特別指導中(欠席)
B	・作業内容や工程を自分で確認しながら、一つ一ついいいに取り組むことができる。 ・移動時は小走りを意識する。 評価の観点(4&6)→(×) (5)→(Δ)	F	・周囲の状況を見ながら自分の考えを的確に伝え、手早く適切に作業を進めることができる。 評価の観点(4&6)→(○) (5)→(Δ)
	自分の担当でない花のせい、いま 1 つ灌水の注意が足りず「ちょっと水をあげました」など理解不能な行動になる。雨が降っているのに、外に花を置きっぱなしにする。		時間と友達を気遣う様子が常にあった。灌水は一人で根気よく取り組んでいた。
C	・作業内容や工程を自分で確認しながら、一つ一ついいいに取り組むことができる。 評価の観点(4&6)→(Δ) (5)→(Δ)	G	・作業内容をしっかりと理解し、いいいに手早く作業することができる。 ・自己確認をどんな場面でも行うことができる。評価の観点(4&6)→(Δ) (5)→(Δ)
	とりあえずみんなと同じ行動をしておけばいいかなという感じで、自ら考えて動こうという意思はみられない。		レジ練では緊張してしまい作業中だがトイレに行きたいと申し出てきた。レジ練はすぐに操作を理解出来た。
D	・周囲の状況を「見て・話しをして」確認し、手早くいいいに向上心をもって作業を進めることができる。 評価の観点(4&6)→(Δ) (5)→(○)	H	・周囲の状況を「見て、話しをして」確認し、工夫しながら手早くいいいに向上心をもって作業をすすめることができる。 評価の観点(4&6)→(Δ) (5)→(Δ)
	みんなをまとめつつ効率の良さを発揮していた。時間の経過とともに雑になる場面もあった。		準備中の友達に対する言葉遣いが乱暴で注意を受ける。他は、場面事に知恵を働かせて活動し、みんなと分担協力できた。

農業科指導の重点(平成26年度)・本時の重点ポイント(最重点◎、重点○)

本時の重点ポイント	(1) 自立に必要な基礎的学力や社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身に付ける。(知識・技術)
	(2) 栽培から販売までの過程を学習することを通じ、やりがいや生きがいを見いだし実践的な労働意欲を高める。(職業)
	(3) 整理・整頓・清掃の生活習慣を身に付けるとともに、健康・安全に気を付ける。(心と体)
	(4) 姿勢の保持、集中力、持続力、集団行動などの基本的作業態度を身に付ける。(職業)
◎	(5) 「作業強化日」「現場実習」を通して自己の課題を理解し、卒業後の職業自立に向けて自ら課題解決をしようと努力する姿勢を身に付ける。(自己内省)
	(6) 様々な作業体験を通して自己の理解力を高め、卒業後の職業生活への見通しを持たせ、自立への興味・関心を持つ。(自己理解)
○	(7) ホームルールや他教科との連携を図りながら、社会人として必要なコミュニケーションの取り方を身に付ける。(コミュニケーション)

本時の活動: 来学期&次年度準備

本時の目標: 将来(自立)を意識しながら、基本的な働く力が身についているかを意識しながら取り組む(5)

: 様々な場面で、適切ななかかわり方でかかわることができる(7)

本時の展開

配時	指導内容	学習活動	備考
5分 (9:05)	・集合 ・内容確認	・班長の号令 ・本時の作業内容と目標確認	
110分 (9:10)	シクラメン灌水 & 手入れ ミニシクラメン灌水 & 手入れ 大掃除	・シクラメン灌水 & 手入れ → 丁寧に、一つ一つ B、E、F ・ミニシクラメン灌水 & 手入れ → 丁寧に、一つ一つ A、C ・大掃除(第三回) 窓など → 丁寧に、一つ一つ D、G 予定していた作業が終わった場合には、担当の先生に報告し指示をあおぐ。 ・作業場の後片付けを協力して行う ・班長の号令 ・本時の振り返りと反省	各作業終了後 除雪 その後 合同授業 準備
5分 (11:20)	・集合 ・反省		作業日誌は、帰りに提出

教師	評価の観点(本時の目標から)	評価	授業記録
	・将来(自立)を意識しながら、基本的な働く力が身についているかを意識しながら取り組むことができた(5)	4	最初に時間の見通しを持たせたことで、クラスとしての動きはスムーズであったが、個に頼って動いている生徒も多い。
	・様々な場面で、適切ななかかわり方でかかわることができた(7)	3	
	個別指導目標と評価の観点		生活習慣形成目標
A	・全体説明されたことを適切に理解して、正確に手早く長時間取り組むことができる。	2	授業記録
	評価の観点(5)	2	朝会で除雪をするとかけていたが、軽装で来て、寒さで除雪の動きが鈍かった。終了後、指導を行ったので次回へ期待。
	(7)	3	
B	・時間と仕事のペースを考えて、効率的に作業に取り組むことができる。	4	授業記録
	・卒業後の就労を意識した、立ち振る舞いができる。	3	除雪の動きそのものは悪くはないが、声出しが少なかつたために、除雪道具をもったままぶつかりそうになる場面があった。
	評価の観点(5)	3	
	(7)	2	
C	・全体説明されたことを適切に理解して、正確に手早く長時間取り組むことができる。	3	授業記録
	評価の観点(5)	4	除雪を頑張ろうという意識は高かった。しかし、道具の使い方など、昨年度の経験を活かしていかれていない場面が多くあった。
	(7)	3	
D	・内容をえり好みせずに、どんな作業にも最後まで取り組むことができる。	3	授業記録
	・仲間と協力して作業に取り組むことができる。	3	説明していないことまで取り組もうとした。その場合、自分の考えが正しいか確認する必要があることを指導する。指導を受け入れる心の変化は感じられる。
	評価の観点(5)	3	
	(7)	3	
E	・時間と仕事のペースを考えて、効率的に作業に取り組むことができる。	3	授業記録
	・卒業後の就労を意識した、立ち振る舞いができる。	4	灌水をする、除雪をするなど、段取りや見通しがある仕事への意欲はすごく高い。しかし、効率や工夫といった面では、弱さが見られる。
	評価の観点(5)	4	
	(7)	3	
F	・全体説明されたことを的確に理解し、説明されたとおりに作業を行うことができる。	4	授業記録
	・卒業後の就労を意識した、立ち振る舞いができる。	3	シクラメンを早く終わらせて除雪という意識が高く、移動なドススムーズな動きができていた。しかし班長としての全体をまとめる時、必ず焦ってしまう。
	評価の観点(5)	3	
	(7)	3	
G	・全体説明されたことを適切に理解し、説明されたとおりに、手早く作業を行うことができる。	2	授業記録
	・移動時は走るなど、時間を意識する。	3	掃除の場面、窓拭きの仕事はガラスのみ拭くなど、日頃の取り組みも含め、経験を重ねさせる、手順を確認振り返らせることが、やはり必要である。
	評価の観点(5)	2	
	(7)	2	
			授業記録
	評価の観点()		

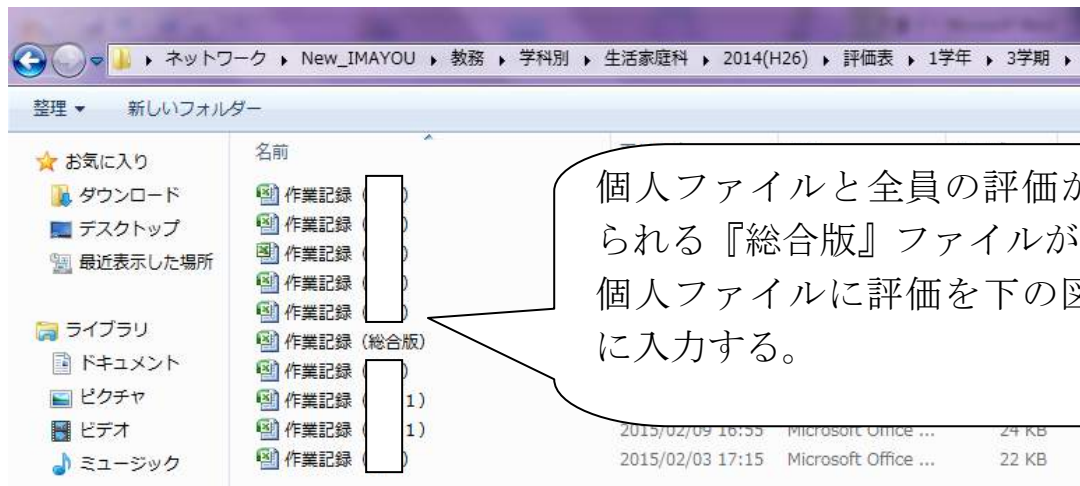
個別目標月別評価(10月) 農業科3年

名前	個別目標	月別評価 (1～5)	記述
A	・全体説明されたことを適切に理解し、説明されたとおりに、手早く作業を行うことができる。		前提実習のため授業は不参加
B	・時間と仕事のペースを考えて、効率的に作業に取り組むことができる。 ・仲間に声をかけ協力することができる。	3.833333333 3.5	実習直前もあり、特にコミュニケーション面の意識が高かった。しかし、コミュニケーション意識が高すぎるのか、スピードへの意識がいまいちだった。
C	・全体説明されたことを適切に理解し、説明されたとおりに、正確に手早く作業を行うことができる。	3	説明されたことに対して、わからないときはその場で聞く姿勢が身についてきた。しかし、他へ説明する場面では言葉足らずで、説明不足。
D	・内容をより好みせずに、どんな作業にも最後まで取り組むことができる ・仲間と協力して作業に取り組むことができる	3.833333333 3.833333333	説明されたこと、指示されたことは冷静に行うことができる。しかし、鉢の手入れなど、仕事の丁寧さに欠けることがあった。
E	・時間と仕事のペースを考えて、効率的に作業に取り組むことができる。 ・仲間に声をかけ協力することができる	3.5 3.5	基本的にはどんな仕事にも積極的に取り組む。しかし、ちよつと気が緩む雰囲気があるとのかかり、自分で修正することができない。
F	・全体説明されたことを的確に理解し、説明されたとおりに作業を行うことができる。 ・仲間に声をかけ協力することができる。	3.333333333 2.833333333	少しずつだが、大まかな指示でも理解できたり聞き直す場面が増えた。しかし、説明された事以外はなかなか頭に入っていない。
G	・全体説明されたことを適切に理解し、説明されたとおりに、手早く作業を行うことができる。	3	基本的にはものぐさ。指示や注意された場面では集中が少し続くが、長くは続かずもとのだれた姿に戻ることが多い。

資料 5

マツリックスとの関連		指導の重点		12月4日	12月5日	12月6日	12月10日	12月11日	12月12日	改善の力案
(1)	職業	縫工、リサイクル、紙造、環境整備等の作業を通して興味関心の幅を広げ生活経験を豊かにすると共に、働くことの意義や喜びを理解する気持ち			○	○	○	○	○	
(2)	自己理解	現場実習・作業強化日などを通して自己の長所を知り課題を理解し、他者から受ける評価を受け入れる気持ちを育てる。			○	○	○	○	○	
(3)	自己内省	働くために必要な態度・習慣・集中力や注意力、課題解決に向けて努力する姿勢を育てる。			△	○	○	○	○	
(4)	知識・技術	作業学習や日常生活に必要な基本動作及び巧緻動作、協応動作の向上を図ると共に、社会のルールやマナー、礼儀を身につける力を育てる。			○	○	○	○	○	
(5)	知識・技術	安全に作業を取り組めるよう、道具等の取り扱いに気を付ける力を育てる。			△	○	○	○	○	
(6)	心と体	ホームルームや他教科との連携を図りながら、望ましい生活習慣や健康を維持できる力を育てる。			△	△	△	△	△	
(7)	コミュニケーション	場の状況に応じた挨拶・返事・報告をする力や、必要な支援を他者に求めることができる力を育てる。			○	○	△	○	△	
				12月4日	12月5日	2013/12/6 紙すき55枚 液体9	2013/12/10 紙すき33枚	12月11日	2013/12/12 紙すき	特記事項
氏名	A	石けん作り 自分では全く準備できない。指示されたことをやる感じ。報告の言葉は覚えていてしっかり言えていた。	石けん削り 準備は薄口の後をおいて見ながらやっていく。石けん削りは1時間手を休めるとなると集中できなかった。掃除・片づけも自分から仕事を見つけていることが多かった。	ローラーかけ ローラーのかけ方をしっかりと理解してスムーズに動いていた。失敗もなく仕上がりもきれいにできていた。返事・報告も大きな声でできた。	封筒作り(56枚) 手早く封筒切りができていた。何度か真直ぐ切れていないことがあったが、次は気を付けるようにと言った後は言った通りにできていた。報告はしっかりと。	ローラーかけ				
氏名	B	出停	出停	出停	出停	出停	出停	出停	出停	
氏名	C	石けん作り 準備は自分なりに覚えている物を用意していたが、不十分。型に入れる時に何度も液をこぼした。	裁断・軽量 裁断は、職員の指示を聞きながら手早く行うことができている。28枚。軽量では、計りの数字をしっかりと確認しながら手早く行うことができている。38個。	液体せっけん作り 落ち着いて最後まで集中して作業していた。最初の石けん作は指示や声がけが必要だったが、二回目からは一人でできていた。後片付けも自分から進んでしっかりできていた。	アクリル板洗い 準備はヒントを言わないで分からないものあり。集中して取り組んでいたが、やり方を自分で流すことより指導。	メモ帳作り 初めてのメモ帳作りだったがやり方を説明すると覚えその通りやっていた。報告もしっかりできていた。バルブ切りも手を止めずに集中してできていた。	メモ帳作り メモ帳のサイズに切る裁断のやり方を覚えてきて終わるまで集中して取り組み続けた。報告もしっかりできていた。			
氏名	D	ラミネート・バルブ切り 上手くラミネートが割がせないのがストレスだった。落ち着きがなく手前足上げたり人目を見て手を止めたことがあった。自ら報告することがなかった。	バルブ切り 大きな声を出すこともなく、手を止めることもなく集中して切っていた。目が合うと終わらぬという言葉を言うことができていた。	液体せっけん作り 落ち着いて最後まで集中して作業していた。後片付けもすべてに指示や声がけをしなくていい行動に移ろつた。報告も声を掛けなくてもできなくなった。 報告	ばち袋作り 最初から不安定な様子。準備は声掛けをしてやる。きをつけをきかないと次の工程に取り組みれない。自分から報告したことは1回だけ。後は、促さなければいけない。 掃除で型などを破っていた。 手をとめない	型外し・洗い 型外しは手順よくどんどん外すことができた。石けん削りは言葉がけが必要な部分があるが、集中して取り組んでいた。報告は自分からはできず促されてからの程度。 報告	封筒切り 線の通り上手に切り取ることができた。切り終わった後報告するよう言うが、できない。封筒の柄を眺めていた。声掛けて報告を促すも時間がかることが多かった。			
氏名	E	石けん作り 紙を見ながら準備。工程は覚えていて自ら取り組みることができた。型に入れる時にこぼすことあり。	石けん削り 準備や身支度も申し分なかった。石けん削りも集中して行い、丁寧に洗って拭き取った。掃除・後片付けも手早く無難にできていた。	紙すき 集中して行っていた。バルブの取り残しは前回より少なく、無駄な動きもなく、後片付けまで手早くできていた。	紙すき バルブの取り残しはなく、やり直しも1度しかなかった。後片付けや掃除も黙々とこなれていた。	封筒作り(56枚) 全体を通して、集中して丁寧に行おうとしている姿勢が見られた。テープ貼りは仮留めにしようとしたが、剥がれやすかった。型紙通りに折れず曲がってしまったことが多かった。	紙すき 非常に丁寧に紙造を行なった。意欲的に取り組み続けた。掃除も排水溝をきれいにして洗っていた。			
氏名	F	丁寧さ確保 石けん作り 工程とは別に、余計な言葉をしたり音を立てないようにしている。	バルブ切り 注意する点(同じ幅で切る)を確認してから取り組み始めるが、できていない箇所を2回した。手を止めることはなく取り組み続けている。	ローラーかけ ローラーのかけ方をしっかりと理解してスムーズに動いていた。失敗もなく仕上がりもきれいにできていた。返事・報告も大きな声でできた。	自分から動く、声を出す 準備・掃除の声掛け	型外し・洗い 型外しは、残念なことには減ってきた。そろそろ石けんが落ちてくる気配も出てきた。自分のノーマルはすべて終了。報告はできた。石けん削りは非常に手順が良かった。型紙通りに折れず曲がってしまったことが多かった。	ローラーかけ			
氏名	G	ラミネート・バルブ切り 時間前に教室に入っていたが、自分の仕事の準備をしていなかった。作業は最後まで取り組むことができた。よそ見をすることもあった。切ったバルブは少なかった。	バルブ切り たまに手がとまることがあったが、2枚ずつ切れるペースで切ることができていた。終わりに少し作業と関係のない話をしていた。お陰で自分から切った。	ミキサー 外し方がわからないところがあったが、すぐに通常の工程で作業ができた。湯を注ぎ水を入れる前にブラッシングボタンを押していた。無駄な動きもなく、掃除も周りをみて行っていた。	準備・掃除 準備はしっかりとできていた。前回同様湯の水が入る前にブラッシングボタンを押していた。無駄な動きもなく、掃除も周りをみて行っていた。	計量(5g100個) 手早く計量ができていた。報告する時はないときがある。手を休めることはなかった。ミキサーは少しも早く切れていたが、ゴミ取りは最初から行ってしまった。	ミキサー よいミキサーからすき口に押し込むため、水漏れがなかった。水漏れを防ぐ方向を変えようとしていた。ミキサーの手前は少し高くなった。手前は少し高くなった。			
氏名	H	名刺割り・計量 定規を並べて使うことや計量の数字が「0g」になるのを確認せずに重量を行うことがあった。全体を通して、集中しており、丁寧に取り組みることができていた。名前30枚、重量50個(5色×10個)	名刺割り 集中して慎重に行うことができていた。1枚切りの間に時間をかけていたので、丁寧に仕上げられつつも少し遅く感じた。加えて見るようになっていた。	名刺割り 正しく道具を使い丁寧に切れていた。手早さもあっていった。最終的な時間に気がつく様子はない。	封筒作り(56枚) 封筒切りはほとんど丁寧に行っていたが、1つ切るのが6分弱かかっていました。折り付けは2枚曲がっていたが、それ以外には線の上にへらで跡を残してあげていました。	封筒作り(13枚) 封筒切りはほとんど丁寧に行っていたが、1つ切るのが6分弱かかっていました。折り付けは2枚曲がっていたが、それ以外には線の上にへらで跡を残してあげていました。				

新しい様式

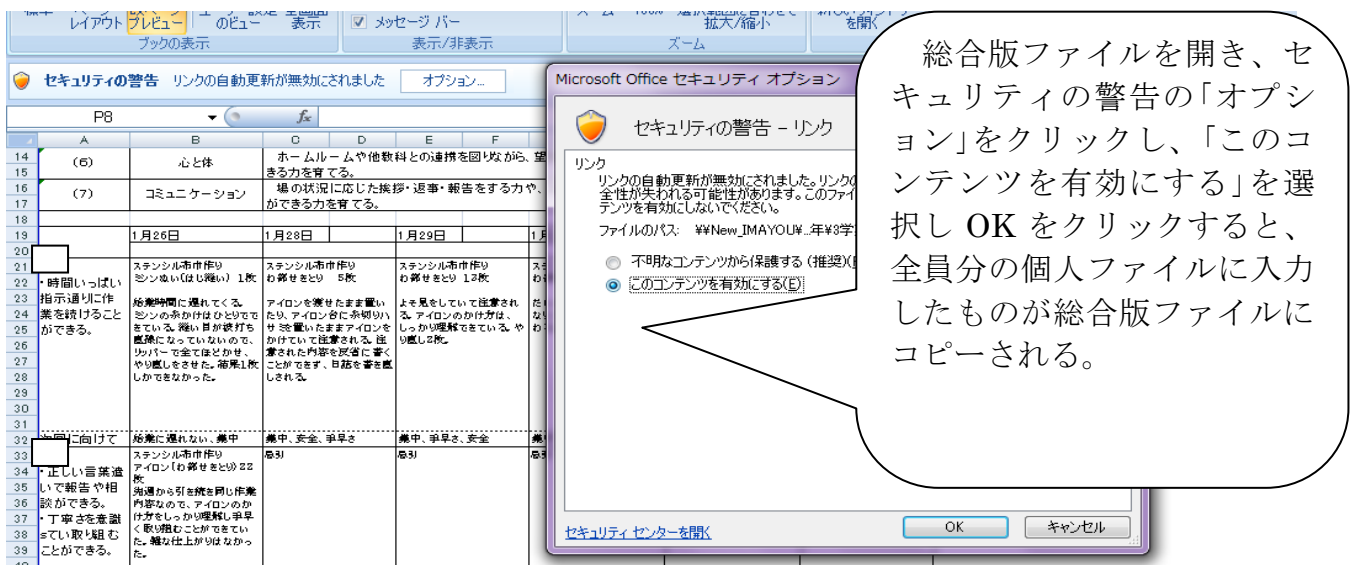


- ・個別のファイル(個別の指導目標を記載)

[illegible]

- ・総合版ファイル

本時での様子を踏まえ、次時で重点的に指導することを入力する。



[illegible]